

事業所名

こだまクラブ

支援プログラム

作成日 令和7年3月31日

法人（事業所）理念	1. 基本的人権の理念 私たちは人間同士の関わりが中心となる仕事に就くものとして、愛情と忍耐と使命感のもと、お互いの人格を尊重し合い、利用者の基本的人権と尊厳が損なわれないようにしていきます。		
	2. 協働と連帯の理念 私たちは障害者、健常者、家族、地域の共同と連帯を目指し、人としての価値は常に平等であり、地域の住民という役割を果たせるよう、社会参加実現に向けて支援していきます。		
	3. 自立の理念 私たちは、障害者が一人の人間として地域で生活するために、個々の目標とニーズに基づき、「自立」に向けて現実的・具体的な生活力がつくよう支援していきます。		
支援方針	<p>1. 「目に見えるすべては誰かの働きでできている」ことを知り、いろいろなことを実際に体験して理解できる。</p> <p>2. 子どもができていることを評価し、自己肯定感を高められる。</p> <p>3. 互いの障害特性を含め個性をよく知り、いっしょに過ごしていくための知恵を出し合えるよう支援を行う。</p> <p>4. 将来像を在学中から考え、適切な支援を受け安定した生活が送れるよう法人後見も含め関係機関と連携し形作っていく。</p>		
営業時間	学校がある日：10時30分から19時30分まで 学校休業日：8時30分から17時30分まで	送迎実施の有無	あり
支援内容			
本人支援	健康・生活	・利用の際のルーチンとして手洗いうがい、検温の習慣化を図り、健康状態の維持や変化の把握に努める。	
		・発作のある子には日常的に観察結果を記録し、医療につながる情報提供を行う。	
		・基本的な生活スキルの獲得と定着を実際の場面で指導、定時排尿、手洗い、更衣の場面での着衣の指導等を実施。	
		・家族に対して月1回以上感染症予防に関する情報提供を行っている。	
	運動・感覚	・昔遊びやなわとびなどを通じて基礎的な運動能力の培いを遊び感覚で楽しく実践する。	
		・外遊びで鬼ごっこや魚とりなどの活動にも取り組むなかで体を自由にコントロールする力の養い。	
		・家族からの要望に応じる形で自転車の練習に取り組み、社会的な要請に応える。	
	認知・行動	・子どもの特性等に応じ具体物とのマッチング、触覚を楽しむ、竹や砂の上を歩くなどの課題を通じて認知機能を高める。	
		・日課の視覚化で見通しを持たせ、グループ毎の活動では名札と内容が記されたカードで内容の確認が常時できるようにする。	
		・音楽療法を通じて、開放された気持ちになって楽しく過ごせるようにしたり、自ら目標をもって取り組めるよう支援する。	
	言語 コミュニケーション	・季節や行事の歌、絵本や紙芝居を読んだり聞いたりして想像をめぐらして楽しむとともに言葉にふれる機会を提供する。	
		・大きな音が苦手な子にはワンクッションおいて話しかけるなどし、それぞれに対し特有の手段があることを他の子に知らせる。	
・体験を通じてその体験と言葉とを結びつける。昔遊び等を通じて子ども同士が相談したして、自ら要求を出したりできる。			

人間関係 社会性	・ 集団療育を基本とし、他者と協働する場面を通じて他者の存在を知り、一緒に楽しく過ごすための方策を学ぶ。		
	・ 子どもサミットなどで活動の中身の話し合いを通じて、お互いを観察し、よく知ろうとする機会を提供する。		
家族支援	子どもの障害特性の理解の促しのための相談援助	移行支援	併用事業所、学校、児相等との情報共有
	子どもの困り感に対する助言		移行先への情報提供、アフターフォローの実施
地域支援・地域連携	学校、併用事業所との情報や獲得目標の共有	職員の質の向上	強度行動障害支援者養成研修への参加（現3名）
	相談支援事業との連携		虐待防止・身体拘束の適正化拠点委員会を設置
	医療機関との情報交換、支援会議の開催		上記内容での内部研修の実施
	地域の小中学校で、米作り等の体験活動を見てもらう		全職員が問題意識に合わせて外部研修受講を奨励
主な行事	買い物体験、公共交通機関の利用体験、（自分たちで栽培したお米で）おにぎりパーティー、とんど焼き等の伝統行事など。		